

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.7.8

No. 29

「先輩からのメッセージ」

<今年3月に卒業した先輩より皆さんへのメッセージが届きましたのでここで紹介します>

自分の進路実現に向けて、すでに動いていることと思います。

私たちも、昨年この時期を経験し、特に就職が厳しい現実の中でなんとか最終的に選択した進路を今、歩んでいるところです。

私は、大学への進学という道を選択しました。高校で学んだことを更に追求し、その方面の職場に就きたいという理由で選びました。大学というところは、高校とは違います。同じ学び舎でも、90分という講義の中でいかにその講義の内容に自分がのめり込めるか、学ぶ意欲がないと意味がないものになります。進学希望者の皆さんは、自分が何を学びたいのか、将来にどうつなげていくのかを今のうちにしっかり考えて、自分のあった学校を選ぶことが大事だと思います。

後輩の皆さん、進路の選択で迷いに迷ってください。そして、どうか出来るだけ手の届かないような大きな夢を持ってください。自分にとって価値あるものを見つけたら、そのまま突っ走ってください。決めるのは自分です。後で悔いを残さないためにも、自分がなにをしたいのか、その答えを見つけてください。そして、自分がそれでいいのだと判断し、その進路へ向かって頑張ってください。

最後に、残りの高校生活で、高校でしか出来ないことを思いっきりやって、悔いのないように卒業してください。頑張ってください！！

諏訪東京理科大学 システム工学部 電子工学科 1年 井上 大樹(前生徒会長)



諏訪東京理科大学見学会報告

7月1日、諏訪東京理科大学の見学会があり、主として1年次生徒の授業を見学してきました。その折に本校卒業生の井上君と話す事が出来ました。30分程の情報交換をしましたので気がついた事をまとめてみました。

1. 就職の求人数は、電子システムが多く経営情報は少なめである
2. 電子システム学科の初期の授業は、電気理論が中心となる。従って微分積分はどうしても必要である。
高校2年次の数学の微分積分は是非しっかりしておくこと。出来たら数学を選択してほしい。
私(井上)は数学を選択しなかったため、その分入学してから苦労している。
3. 大学でも出席を大切にしています。他の大学は出席を取らないところが多いのですが、本学は出席をきちんととり、しかもこれが出席点になり成績に加算されます。高校の授業と似たところがあります。
4. 本大学は面倒見が良い。疑問点とか分からない部分は授業時間が過ぎても時間に関係なく面倒をみてくれます。
<進路職員小林コメント> 某大学では理解出来ない生徒は切り捨て。理解出来ないのは生徒の責任である、という理屈です。しょうがないので、分からない部分は自分で参考書買ってきて勉強するしかないのです。それでも分からない生徒は留年か退学しました。
5. 担任制を採用していて、職員が分担して担任する生徒を決め、面倒をみています。
6. 電子システム学科へ進学してよかったと思っています。理由は、自分のやりたい内容と大体良く似ているから。
逆に電気関係に興味の無い人で電子システムに進学した人には毎日が苦痛だと思います。
7. 大学へ進学するに当たり、自分が何をやりたいか、はっきりしたビジョンをもっている事が大切。入学してからのモチベーションが全然違います。
8. 高校でなければ出来ない事があります。生徒会役員とか生徒会長。これらは高校3年でないと出来ない。一方の、専門科目などの座学はいつでも学習する事が出来ます。どちらかを選択するか聞かれるならば高校時代の生徒会役員の方が優先です。座学はいつでもやり直す事が出来ますから。是非二度と無い高校時代を有意義に過ごしてほしい、と思います。

<以上：小林哲先生>

